

相談支援つうしん

<第56号>2019年10月18日
県立湘南養護学校 支援連携部
相談支援係 ~教師編~

～行動の消去にまつわる話～

不適切な行動を減らしたりなくしたりするときには弱化や消去といった手立てが用いられますが、消去を行う際には気をつけることがいくつかあります。

✦ 行動を強化している好子を特定する

不適切な行動が生起/継続しているということは、そこに何らかの好子があるということなので、まずは好子を特定します。例えば、子どものなくしたい不適切な行動が唾吐きで、その好子は注目されることと特定されたとします。突然ですがクイズです。好子になりうる注目は次のどれでしょうか。 

A. コラッ!と厳しく叱る

B. だめだよ、と優しく叱る

C. チラッと顔を見る

注目自体が好子であれば、反応の仕方が何であれどの選択肢も好子になりえます。ただし、叱ったり注意したりすることで唾吐きが減れば、それらの関わり方は好子ではなく嫌子(罰子)になります。そして、唾吐きは弱化された、と表現されます。

消去は言い換えると強化しないという意味です。注目が好子であれば、唾吐きの前後で何1つ環境(反応)の変化がないようにします。すなわち、あたかも何事もないかのように無視をすることが消去になります。ただし、無視といっても減らしたい行動を無視するだけで、子どもの存在は十分に意識します。では第2問です。消去の手立てを行った行動はどのような経過をたどるでしょうか。 

A. すぐに減る/なくなる

B. ちょっと増えてから徐々に減る

C. 逆にひどくなる

Aは弱化の手立てを行ったときの行動の減少の仕方です。Bは消去の経過の特徴です。今まで強化されていたことが強化されなくなると、行動は一時的に強くなります。消去バーストです。この強くなったところで耐えきれないと、**C. 逆にひどくなる**に移行してしまいかねません。そのため、ちょっと増えたとしてもひたすら我慢するようにします。そうすれば、徐々に行動は減っていきます。

以前、どのくらいの期間で消去が完了するのかという質問を受けたことがあるのですが、これは一概には言えないでしょう。行動が強化された期間や好子の強さによって変わります。しかし、消去やバーストといった行動の原理を知っておけば、見通しや心構えをして臨むことができるでしょう。



✦ 強化しない関わり方の環境設定

消去を行うときに難しいのは、対象となる行動を無視し続けることができるかどうかです。先ほどの唾吐きで言えば、他の子どもに向かって唾吐きをすることは無視することができません。消去の手立てを行う前に、他児に影響がないような環境を予め設定するなどの工夫が求められます。

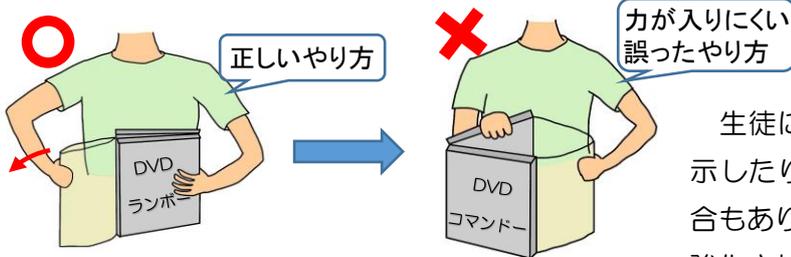
✦ 消去し続けること、部分強化しないこと

消去の手立てを用いる際にはもう1つ大きなハードルがあります。それは消去し続けることです。100

回唾吐きがあったら、確実に 100 回消去する（強化しない）ようにします。これがなかなか難しく、途中で誰かがつい強化するような反応をしてしまいがちです。100 回消去の手立てを行っても、101 回目に反応してしまうと、次から 101 回は唾吐きをしてしまうこととなりますので、101 回目の唾吐きも間違いなく消去してください。逆に、適切な行動を毎回強化して獲得したあとに定着（維持）を図るときには、時々強化する（部分強化と言います）と獲得したスキルが維持され消去されにくくなります。宝くじや公営ギャンブルは、この行動の原理を巧みに利用して成り立っている産業と言えます。

～校内の風景～

高等部校内実習でのことです。音声言語を持たない A さんが DVD リサイクル班でケースから透明フィルムをはがす作業を行っていました。DVD ケースはときどきフィルムがはがれにくいものが混じっています。A さんは不器用さもあってこずることがあり、その都度教員が気づいて指導していました。そして、確かに指導されたとおりにやると、フィルムは上手にはがせていたので安心していましたが、しばらくたつとまたこずっている様子が見られました。よく観察してみると、指導されたときには、左手でケースを持って右手でしっかりとフィルムをつかんではがしていたのが、上手くいかないときには逆の左手でフィルムを持ち、ケースを握る手も持ち方がぎこちない状態になっていました。



生徒によっては一度モデルを示したり口頭指示したりすることでやり方を獲得し定着する場合がありますが、A さんの場合はそれでは十分に強化されず消去されてしまったようです。

スキルを獲得するまでは連続強化することの必要性を感じました。幸い、DVD フィルムはがしという作業は繰り返し指導しやすいため、しばらくは教員がついて正しいやり方を続けるよう指導し、すぐに離れるのではなく、徐々に離れて（部分強化して）スキルが消去されないように定着を図りました。

また、A さんにはもう 1 つ課題がありました。それは、困ったときに自分からヘルプを出すことが弱い点です。その都度教員が気づいて困った時にどう申し出ればいいのか指導していましたが、これも教えたときはよいのですが、“その都度だけ”の機会では定着するには十分ではなかったのでしょう。ヘルプの申し出の仕方を獲得し、維持するまでの強化スケジュールの見直しが必要でした。そこで、わざと実習材に細工をし、10 回に 1 回程度はヘルプが必要な状況を設定しました。スキル獲得に対する手立ては適切であっても、獲得したスキルの維持/定着を図る手立てにも気を配ることを考えさせられる機会でした。

A さんの例のように、指導したことがなかなか獲得されなかったり定着しなかったりする場合には、強化スケジュールの点から指導の計画を見直すことも重要なポイントです。最初のうちは連続/部分強化スケジュールで指導する時間と労力を要しますが、この指導を省いてその都度だけの指導だと、いつまでたっても同じ失敗を繰り返し、個別で教員が対応し続けなければならないという労力がかかる場合があります。これではまるでローンの利子だけを返済し続け、借り入れの元金は一向に減らないようなものです。問題が生じたときに指導するだけでなく、問題が生じないようにするひと手間かける工夫をいつも考えられるように心がけたいものです。